

人郷夢

ストーリー

Vol.6

このコーナーでは、まちづくりなどの活動に取り組んでいる市民の方やグループにお話を伺い、活動内容や活動にかける思いをシリーズで紹介し

ます。これからの暮らしや生き方を見つめ直そうと、思いを共有する人たちが船引町芦沢の蓮笑庵に集まっています。今回は、「NPO法人蓮笑庵くらしの学校」事務局長の鎌田千瑛美さんにお話を伺いました。

鎌田さんは、福島県内外の人と人をつなぐコミュニティコーディネーターとしても活動しています。

震災を機に福島へUターン

私は南相馬市に生まれ、震災当時は東京にあるIT企業に勤めていましたが、南相馬の実家は津波で流されてしまいました。震災直後に実家の姿を目にした時、このままだと自分のふるさとを失ってしまうと感じたのが、今の活動の大きな原

点だったと思います。そこから復興支援の活動を個人で始め、しばらくの間、いろいろな団体の方と一緒に県内と県外をつなぐコーディネートの仕事をしていました。その中で福島の復興を考えた時に、県内と県外で大

きなギャップがあり、そのギャップを埋める役割が足りないと感じたのです。県内で起こっていることをきちんと県外に発信し、県外から必要な支援をつなぐことができたら：と、県内の復興支援団体で働き始めた。それが福島に戻ったきっかけです。

蓮笑庵…民画家 故・渡辺俊明が天地に絵を描くように設計、庭を造ったアトリエ兼工房。仏教を象徴するハスの花と、人も自然も喜び合える美の浄土を願って「蓮笑庵」と名づけた。山を縫うように建つ建物は、工房「蓮笑庵」、アトリエ「雑花山房」、応接空間「万葉」「絵本館」と、それぞれの性格を持つ。渡辺が暮らしの友とした国内外の美術工芸品を所蔵し、今も変わることなく日々の暮らしが営まれている。

NPO法人 蓮笑庵くらしの学校…蓮笑庵を拠点として、持続可能なモデルとなる新しいコミュニティを目指し、春夏秋冬くらしの講座や研修・ツアーの受け入れなど、共に学び合う場づくりを行っている。



「蓮笑庵くらしの学校」理事長 渡辺仁子さん（船引町芦沢、左）
同 事務局長 鎌田千瑛美さん（船引町芦沢、右）

「蓮笑庵」での活動

そんな折、「蓮笑庵くらしの学校」と出会い、平成26年7月にプロジェクトメンバーとして参加しました。

震災と原発事故を経験した福島だからこそ、くらしを見つめ直していこうという切り口でアプローチし、春夏秋冬の行事を大切にする「季節のくらし講座」や、丁寧なくらしを体験す

古民家再生

去年から、古民家再生「すずめのお宿」プロジェクトの活動を始めました。蓮笑庵の近くに、藁ぶき屋根の昔ながらの民家があります。それを古民家としてよみがえらせるのです。

取り壊したほうがいいと言われたこともありましたが、くらしの原点である住まいを自分たちが再生することで、昔ながらの素晴らしい技や良き文化を生かす機会として、可能性を感じたのです。都会や地元の人を対象にくらしを体験できるような空間に

る参加型プログラム「くらし留学」などの企画・運営をしています。活動を続けているうちに、「復興」とか「支援」といった言葉だけでは伝わっていない、もっと福島で普通に当たり前に生きることが大事ではないかと、自分の中で思うようになりました。

再生させ、コミュニティの拠点になれば：そう思って活動しています。

課題はたくさんあります。日本大学工学部のボランティアサークル「RISM（リズム）」や、「Rock Corps（ロックコープス※）」などのボランティアの方々から協力を得て、少しずつ古民家としてよみがえってきています。

※Rock Corps…音楽とボランティアが融合した世界的イベント。多くのアーティストが参加している。

自分らしく生き、未来を変える

蓮笑庵での活動を通じて、お金の価値だけでは測れない貴重な体験と、出会った人とのつながりをいただいています。

「すずめのお宿」プロジェクトでは、地元の大工さんから家づくりの技も学びました。今後は、囲炉裏作りや土壁塗りなど、現代ではなかなか経験することのできない体験プログラムも企

画していきたいと考えています。

福島に戻り、蓮笑庵で活動しているうちに、新たな人生の目標が心の中で形になりました。

——今ここにある問題と向き合いながらも、自分らしく楽しく生きること。そして、日々の足元のくらしから、未来を変えられるよう行動し続けること——。

取材を終えて

古民家再生などの活動を続けながら、「自分たちの日常生活を足元から問い直す」とメッセージを発信している鎌田さん。古民家と蓮笑庵、2つの拠点から「衣食住」をトータルで発信し、くらしについて深く考える場を提供したいとのこと。一つの体験を個人の思い出だけにとどめず、それをきっかけに新たな場やつながりを生み出すことが重要ではないでしょうか。

（協働まちづくり課）



再生している古民家の様子

「ロックコープス」のボランティアの皆さんと

